第3677図

らん科

だいさぎそう

Habenaria geniculata *Don*

千葉県以西の暖地の草地で多少水湿ある地に生ずる多年生草本で高さ50cmに達する。塊根は新旧2個、楕円体。茎は直立、多数の葉をつけるが下方4–5葉は大、長楕円状披針形で10cm内外、他は小形で苞状。9月頃、茎頂に5–15花をつけ純白で大輪、径2cm、稍々偏側性、外花蓋片は卵形で開出、内花蓋片は線状長楕円形で上方は外片に寄り添う。唇弁は大きく扇状で斜め前方に向い、3つに割れ、両側片は先端が細かく切れ込む。中央片は舌状、距は長い。葯室は互に離れ、脚が前方へ突出している。和名は大鷺草でサギソウに比べ大形なるに因る。

第3678図

らん科

おおみずとんぼ

Habenaria linearifolia *Maxim.*

関東及中部の水湿の地に生ずる多年生の蘭。朝鮮、満洲にも生ずる。高さ50–70cm、花は類白色、習性と形態とはミズトンボによく似るが下の区別点あり。

	ミズトンボ	オオミズトンボ
外花蓋上片側面観	倒卵状の四角	低平な半球状
〃 側片	反捲して花の背後で先端が互に接する	斜めに垂れる
唇弁の側裂片	全縁、中片より短	鋸歯縁、中片より長くもなる
距の先端	急に緑球になる	次第に太まり且つ白い

第3679図

らん科

にらばらん

Microtis formosana *Schlechter*

南方にひろく産し、日本でも千葉県以西以南の暖地の向陽の草原或は海岸の塩湿原に生ずる多年生草本。高さ15–30cm、全草軟かく淡緑色、球根1個と若干のひげ根を生じ、ひげ根中の1本の先には別の球根をつけて次年に別株となる。葉は1個、円柱状で下部は鞘となる。4–5月頃に茎頂に3–6cmの穂を出し、緑花を綴る。上部が咲き終らぬ内に下部は稔り、楕円体の子房が目立つ。花蓋片は2mm内外、類楕円形、唇弁もまた楕円形で稍々角張り、基部の両側にはいぼがある。和名は葉蘭で葉状をニラにたとえ、大久保三郎氏命名。

こあにちどり

Amitostigma Kinoshitai *Schlecht.*

北海道・東北から北関東・北陸の亜高山の湿地或は湿った岩壁に着生する多年生草本。高さ10–20cm、多肉の紡錘状の根大小2個と綿毛様の毛あるひげ根2〜3を生ずる。茎は斜立し、痩せて細く、中央辺に広線形の葉を1–2つける。葉は先端尖り、質は厚くない。7月頃に少数の花を茎頂につけるが、白味勝ちの淡紅紫色、花蓋片3片は互いに寄り添い、側外片は開出、唇弁は長さ1cm程で3深裂し、側裂片は斜めにつくため、基部は広い楔形となる。唇弁の本体より短かい距がある。和名は小阿仁千鳥で最初の発見地(秋田県)による。

第3680図

らん科

むかごとんぼ

Peristylus flagellifer *Ohwi*
(=Habenaria flagellifera *Mak.*)

千葉県以西の暖地で粘土質の湿った草原にはえる多年生の蘭。生時淡灰緑色、しかし乾くと全体が真黒になる。高さ20–40cm、多肉の紡錘状根が2個ある。茎の中部以下に数葉が互いに距って斜めにつく。葉は楕円状披針形、先端尖り、基脚は鋭形で短鞘となる。質軟かく中脈へこむ。9月頃に茎頂に15cm内外の多少密集した穂を出し、淡黄緑色の花を開く。上部花蓋片3枚は卵形で互により添って立ち、側方外片は長楕円形で後へ反り、唇弁は舌状、基部の両側に1cmに近いひげを直角に生じ、距は下部が膨れている。和名はムカゴソウとトンボソウとの両者に似ているからである。

第3681図

らん科

くしろちどり

Herminium monorchis *R. Br.*

欧洲からシベリアを経て東亜にも分布する多年生蘭。日本では北海道に稀に産する。高さ15–20cm地下に球状の根1個の外に細い根を横走し、その先端からしばしば新苗を生ずる。葉は根出して2葉、卵状披針形で稍々肉質、暗黄緑色、7月頃に黄色の花序をたて5cm内外の穂を綴り、花は黄褐色で、花蓋片細く且つ下向きに半開きとなるが、花序の印象はユリ科のノギランに似ている。唇弁は中部より稍々下方両側に小突起を具えた舌状。花には蜂蜜の様な芳香がある。和名は最初の産地に因む。

第3682図

らん科